



高校交流事業・実績



名城大学附属高等学校
Meijo University Senior High School



特定非営利活動法人

日本・インドネシア教育文化交流協会

NPO Japan/Indonesia Educational and Cultural Exchange

2-3-31-4F Honjo-Higashi, Kita, Osaka, JAPAN

Tel: +81-(0)6-6136-8253 Fax: +81-(0)6-6373-1607

Email: info@jp-id.org

2014. 11. 03 Monday 17:45

《国際グローバルレクチャー》

普通科国際クラス1年インドネシア研修

国際クラス1年生が10月26日から11月1日の7日間インドネシアバリ島で研修に参加し、バリの伝統、文化や産業についての講義を受け、地域と世界がどう連携しているのかを学びました。宿泊は、プンゴセカン村という村にホームステイし、インドネシアの伝統的生活を体験しました。また、ウブド第一高校を訪問し、現地生徒とともに授業に参加し、各自プレゼンテーション発表を通し生徒との交流を行いました。



現地における主な研修先と研修内容は以下の通りとなっています。

- (1) マングローブ環境調査・海がめ保護活動「観光産業と環境セミナー」
- (2) 伝統工芸品アタの生産と海外進出状況視察「伝統産業のグローバル化セミナー」
- (3) ウブド第一高校生徒とのプレゼンテーション・ディスカッション
- (4) 現地フィールドワーク研修
- (5) 地域産業（コーヒー農園）視察・講義受講
- (6) 在デンパサール日本総領事館 安江領事 講義

(1) マングローブ環境調査・海がめ保護活動「観光産業と環境セミナー」

大規模リゾートホテルの建設により、埋め立てが続く現地ですが、埋め立ての促進は雇用の創出といった要素だけでなく、環境への意識の低下といった人々の心理的要因もあげられるそうです。現地で地元の人々と連携して生態系を保全する活動を行っている日系企業の協力を得て、マングローブ環境調査と海がめの保護活動に参加するとともに、その状況について講義を受けました。





(2) 伝統工芸品アタの生産と海外進出状況視察「伝統産業のグローバル化セミナー」

以前は楯として編まれていたアタが、生活雑貨として製品化され、世界中から購入されています。アタ製品はトゥガナン村が生産の拠点とされ、今もその村を中心にして生産が拡大しています。本研修では、「地域の産業や伝統を極めていくことで世界に繋がっていき、世界に展開することで、地域の産業や伝統も磨かれる」というGサロンでの内容を検証すべく、アタ製品を生産・販売をしている工場でフィールドワークを実施しました。

(3) ウブド第一高校生徒とのプレゼンテーション・ディスカッション

各校、互いの国や文化に関するプレゼンテーションを行ったうえで、日常生活における「当たり前」から将来の夢やキャリア形成の主たる要素についてまで、ディスカッションを行いました。日常生活における違いは、改めて多様性を実感する契機となるでしょう。また、キャリア形成は産業と密接に関係するため、現地産業のあり様・課題が垣間見えると考えられます。特に、現地生徒のキャリア形成の過程で、どの程度、伝統とその独自産業化が影響しているかをディスカッションを通して学びました。



(4) 現地フィールドワーク研修

ウブド王宮・アルマ美術館・農家に分かれて、伝統的な部分と産業化・グローバル化された部分がどのように共存しているのか、また、グローバル化した世界に対してどのような関わり方をしているのかを観察・聞き取りによって調査しました。特に、ウブド王宮では、王宮が地域と世界に担う役割とその変容、アルマ美術館では、現地における戦略、農家では伝統的なスバックの思想やお祀りが現在の生活に与える影響と家族のキャリア意識について調査しました。



(5) 地域産業（コーヒー農園）視察・講義受講

第二次世界大戦後一旦は衰退した、日本によって再興されたコーヒー産業は、現在世界第3位の生産量を誇っています。日本は戦後初期から ODA 援助を利用して、現地に品質管理や栽培技術を教えるとともに、現地の人々を雇用し、現地の人々によって農園運営を行う方針を取ることで途上国支援の役割を果たしてきました。また、農園の維持においては、極力伐採を行わないようにすることで自然環境に対する負荷の少ないかたちがとられています。フェアトレードの対象となることも多いコーヒーですが、バリ州キンタマーニ高原付近でとれるアラビカ種は「バリ



アラビカ 神山」として、日本企業と通常取引が行われています。現地では、日本珈琲貿易株式会社との取引のある農園を視察し、「バリ島の産業・ビジネスと日本」についての講義を受講しました。



(6) 在デンパサール日本総領事館 安江領事講義

講師自身のキャリア形成の過程やインドネシアと日本のつながりを何うとともに、領事という職務におけるもっとも重要な要素を基に、グローバルリーダーとしての資質についての講義を受講しました。